

京都府立林業大学校
自然を尊敬して
京の森林をつくるプログラム
社会的認証報告書
(第2種)

2013年1月25日

一般財団法人 地域公共人材開発機構

目 次

1. 社会的認証結果（総合評価）

- (1) 社会的認証結果
- (2) 評価すべき点
- (3) 課題
- (4) 指摘事項
- (5) 勧告事項
- (6) 助言

2. 社会的認証結果（項目別）

- (1) 目的・教育目標
- (2) 資格教育プログラムの内容
- (3) 学習アウトカムの測定
- (4) 資格教育プログラムの管理・運営・改善
- (5) 教員及び講師
- (6) 資格教育プログラムの特色

別表 1 プログラム審査委員構成

別表 2 訪問評価団構成

別表 3 訪問評価概要

1. 社会的認証結果（総合評価）

（1）社会的認証結果

「適合（改善勧告あり）」

（2）評価すべき点

- ① 「自然を尊敬して京の森林をつくる」という高い志のもと、森林・林業の「川上」に関する知識・技術の習得に特化することなく、「木材コーディネーター」「京の木と文化」といった流通全般 や京都の伝統的な建築など「川下」の要素を含んだプログラム内容となっている。
- ② これまでの「地域公共政策士」プログラムには見られない具体的かつ高度な職能開発を目的としていることから、「地域公共政策士」が目指す職能教育と高等教育との接続における発展の可能性を示唆している。

（3）課題

- ① 学習アウトカムでは「森林を取り巻く地域社会において様々な課題に対応する知識・技能・実践方法の習熟とともに、それらが地域社会に与える影響を適切に判断することができる」などの高度な公共政策に関する知見が求められているにも関わらず、当該プログラムにおいては、公共政策系科目内容が不十分であり、偏りが見られる。今後は、ガバナンスや政策形成、政策評価等、公共政策系科目についての体系的な科目編成をする必要がある。
- ② 当該プログラムの特徴として「川上」～「川下」に幅広の科目配置を掲げているが、当該プログラムにおける「川下」の捉え方が狭い。今後は、「川下」の概念をより広く捉え、木材の流通構造、消費者ニーズの把握等を可能とする「川下」科目の充実が求められる。
- ③ 訪問調査の結果、成績（ポイント）評価基準が明確でなく、試験を受けるために必要な出席数の基準などがあいまいであることが判明した。今後は、評価基準を学習者に対してきちんと明示し、その基準に基づき評価すべきである。
- ④ 訪問調査の結果、講義の指導内容等について、科目間で重複があり、当該プログラムにおける教員間での擦合せが不十分である可能性が判明した。今後は、定期的に科目内容の摺合せや共有を図られたい。

(4) 指摘事項

特になし

(5) 勧告事項

当該プログラムには、レベル7（第2種）として改善すべき重大な問題があり、下記の点について早急な改善が求められることを勧告する。

- ・ 現在の学習計画では、高度な職能教育に特化したレベル7（第2種）の当該プログラムを受講し、2年次に京都府立大学のレベル6プログラムを受講する設計になっている。しかし、地域公共政策士プログラムは学習レベルの積み上げによる学習アウトカムの達成を目的としていることから、1年次に京都府立大学のレベル6（第1種）のプログラムが履修できる設計にされたい。

(6) 助言

- ① 京都府立大学の公共政策学部に加え、同大学農学系学科とも連携し、生物多様性等の森林環境系の知識も深めるような科目を当該プログラムに組み込まれることが望まれる。
- ② 学習者の自主的な活動による地域との交流や関係づくり、「林業大学校地域連携協議会」による支援体制は大変評価できる。今後は、個人的なつながりにとどまらず、当該プログラムにおいて、地域との協働による活動を推進していくような展開を期待したい。
- ③ 当該プログラムは、職能教育に特化した設計になっており、地域公共政策士として求められる公共政策系の科目についてはレベル7（第2種）にふさわしい科目が配置されていないことが見受けられる。当該プログラムにおいて、レベル7（第2種）にふさわしい公共政策系の科目を配置し、その科目については当該プログラムにおける必修科目にすることが望まれる。

2. 社会的認証結果（項目別）

（1）目的・教育目標（項目別）

1-1	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムの目的及び教育目標が明示され、育成すべき能力が明確かつ適切に公表されているか。
-----	-----------------------------------------------------------------

自己点検評価書及び添付資料 1-2 により、当該プログラムについて、「中長期的な視点、多様な視点により森林を理解する姿勢」等の 5 つの育成すべき能力（目的）やその意義は明確に明示され、公表されていることが確認できた。

(2) 資格教育プログラムの内容

2-1	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラム修了に必要な期間及び修得ポイント数が、当該資格教育プログラムの目的・目標に則して適切に設定されているか。
-----	------------------------------------------------------------------------------

自己点検評価書及び添付資料 2-3 により、当該プログラムの目標である「自然を尊敬して京の森林をつくる」というテーマに即して詳細に説明されており、学習期間や修得ポイント数、科目群は、当該プログラムの修了に向けて適切に設定されていると確認できた。

2-2	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラム修了の基準及び方法が当該プログラムの目的・教育目標に応じて策定され、学習者に周知・共有されているか。
-----	----------------------------------------------------------------------------

自己点検評価書及び添付資料 2-3、2-5 により、修了要件が詳細に説明されており、これらがプログラムの目的に合わせて適切に設定され、ロングホームルームや掲示・資料配布で、学習者への周知・共有されていることが確認できた。

ただし、自己点検評価書に記載されている評価基準等の詳細な内容は、学習者への周知の向上のため、添付資料 2-1 の「シラバス」に記載されることが望ましい。

2-3	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムの目的・教育目標を達成するため体系的な科目が編成されているか。
-----	---------------------------------------------------------

自己点検評価書により、「自然を尊敬して京の森林をつくる」というテーマに即した概念で科目編成を行うことで、体系的な科目編成がされていると確認できた。

ただし、「地域公共政策士」プログラムとして必要な公共政策系の科目が選択科目であり、「概論」といった学部レベルの内容に見受けられるため、レベル 7（第 2 種）にふさわしい内容に変更し、必修にすべきである。

2-4	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムの目的・教育目標を達成するために、科目の内容、教育の方法が適切に実施されているか。
-----	-------------------------------------------------------------------

自己点検評価書により、各講義における教育方法の工夫について説明があり、適切に実施されていることが確認できた。

2-5	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムでどのような学習者を想定しているかが明らかにされ、それに合わせた開講形態となっているか。
-----	----------------------------------------------------------------------

自己点検評価書により、対象者は当該大学の森林林業科の森林公共人材専攻の学習者を想定しており、少人数制の状況をフルに生かしたフレキシブルな講義をするなどの工夫があることが確認できた。

(3) 学習アウトカムの測定

3-1	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムの目的・教育目標に応じた学習アウトカム、ポイント認定の基準及び方法が策定され、それらが学習者に対して、あらかじめ明示され、それらの基準及び方法に基づき、学習アウトカムに対する評価、ポイント認定が行われているか。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己点検評価書及び添付資料 2-1、2-3 により、学習アウトカムの基準及び方法が策定され、学習者に対しあらかじめ明示されていることが確認できた。

3-2	各資格教育プログラムの学習アウトカムについて、学習者によるプログラム修了後の評価の仕組みが整備されているか。
-----	--------------------------------------------------------

自己点検評価書により、全体でのロングホームルーム時の聞き取り調査及びアンケート調査、個別面談による聞き取りを実施する予定であることが確認できた。

少人数教育のため、個別に細やかな対応が可能であることは評価できる。

3-3	外部機関と連携した科目等がある場合には、その実施先による学習者の学習アウトカムに対する評価の仕組みが整備されているか。
-----	-------------------------------------------------------------

自己点検評価書により、NPO 法人と連携して提供されている科目の評価は、その「NPO 法人による成績評価で合格する」こととなっていることが確認できた。ただし、外部機関による学習アウトカムに対する評価の基準が明確ではないため、明示し公表することが望まれる。

(4) 資格教育プログラムの管理・運営・改善

4-1	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムの趣旨に沿って、科目の具体的な内容・方法、使用教材、履修要件及び一年間の科目日程等を明示し、カリキュラム及びシラバス、教育効果の測定方法等の見直しを適切に実施しているか。
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

添付資 2-1 により、科目の具体的な内容等の情報が明示されていることが確認できた。また、自己点検評価書及び添付資料 4-3 により、カリキュラムおよびシラバスの見直しは半期ごとに大学全体の仕組みとして実施され、教育効果の測定方法の見直しは「成績評価委員会」により実施されていることが確認できた。

4-2	学習アウトカムに対する評価、ポイント認定において、評価の公正性及び厳格性を担保するため、学習者からの異議申し立てに対応する仕組みが明文化され、運用されているか。
-----	----------------------------------------------------------------------------------

自己点検評価書によると、担当教員・職員に直接申し立てをし、申し立ての仕組みについての明文化は検討中とされている。訪問調査では、本プログラム認証評価結果を踏まえて、明文化する方針が示された。ただし、異議申し立ては、科目担当者に直接申し立てるのではなく担当者以外の者に申し立てでき、仕組みが早急に明文化されるように改善が望まれる。

4-3	「地域公共政策士」育成のための資格教育プログラムを継続的かつ円滑に実施していくための体制が適切に整備されているか。
-----	-----------------------------------------------------------

訪問調査の際の回答書により、副校長を責任者、専任教員 2 名をコーディネーターとした 3 人体制で、制度設計や運営を実施していくことが確認できた。

また、学習者からのフィードバックを得る振り返りシートや、外部の森林・林業関連組織との連携を図る「京都府林業の担い手交流・育成協議会」との関係、地域の各団体で構成される「林業大学校地域連携協議会」などは、いずれも当該プログラムを今後地域の協力を得ながら、円滑に運営するための仕組みとして評価できる。

(5) 教員及び講師

5-1	教員及び講師等が各資格教育プログラムの目的及び教育目標に沿って構成されているか。
-----	------------------------------------------

自己点検評価書及び基礎データにより、専任の教員が7名（第1号教員1名、第2号教員6名）に加え、多彩な外部講師15名で構成されており、適切な構成・配置状況にあると確認できた。

ただし、外部講師のほとんどが実務家であるため、よりアカデミックな知識やスキルについて指導できるような教員体制の整備を検討されることが望まれる。

5-2	<p>科目を担当する教員及び講師は、以下のいずれかに該当し、かつ、適切な指導能力を備えているか。</p> <p>① 教員及び講師の類型は、以下の各号に該当するものとする。 第1号教員等 教育プログラムの教育に必要な学位及び業績を有する者 第2号教員等 特に優れた知識及び経験を有する者 第3号教員等 教育・研修指導に必要な資格・技能等を有する者 第4号教員等 資格教育プログラムの遂行上特に必要とされる学習の補助を行う者</p> <p>② 教員及び講師の類型は5-1の別表に記載されている場合には省略することができる。</p> <p>③ 第4号教員等とは、第2号教員等と一体となって実践教育を補助する者等を指す。</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基礎データにより、指定条件を適切に満たしていることが確認できた。

(6) 資格教育プログラムの特色

当該プログラムは、森林・林業関連の幅広い地域活動を支える公共人材を育成する目的で開発され、林業技術を習得するだけでなく、政策、経営、木材の文化といった分野に関する包括的な知見を有する人材の育成を目標とする大変ユニークで、かつ現在の日本のニーズにマッチした特徴のあるプログラムである。また、他のプログラムに比べ、具体的な職能開発を目的にしており、今後の地域公共政策士の発展のために、有益な情報を提供してくれると期待している。

別表 1 「プログラム審査委員」構成

所属	氏名
大学プログラム評価に係る専門知識を有する学識経験者（1名）	早田 幸政（大阪大学 評価・情報分析室 教授）
実務経験者（1名）	圓山 健造（社団法人 京都経済同友会 事務局次長）
公共政策系大学（1名）	森脇 俊雅（関西学院大学 法学部 教授）
機構の役員（1名）	西寺 雅也（名古屋学院大学 経済学部 教授）

(順不同、敬称略)

別表 2 「評価員」構成

所属	氏名
公共政策系実施機関 （10名）	北川 秀樹（龍谷大学政策学部 教授） 窪田 好男（京都府立大学公共政策学部 准教授） 小暮 宣雄（京都橘大学現代ビジネス学部 教授） 小西 敦（京都大学大学院公共政策連携研究部 特別教授） 滋野 浩毅（成美大学経営情報学部 准教授） 杉岡 秀紀（京都府立大学公共政策学部 専任講師） 中谷 真憲（京都産業大学法学部 教授） 的場 信樹（佛教大学社会学部 教授） 的場 信敬（龍谷大学政策学部 准教授） 武蔵 勝宏（同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授）
実務経験者 （5名）	田浦 健朗（特定非営利活動法人気候ネットワーク 事務局長） 小西 葉子（京都府政策企画部計画推進課 副課長） 鈴木 康久（京都府府民生活部府民力推進課 課長） 福島 貞道（景観・都市政策研究所 代表／福島建築法令事務所 代表） 平尾 剛之（一般財団法人社会的認証開発推進機構 事務局長）

(五十音順、敬称略)

別表 3 訪問評価（サイトビジット）概要

2012年10月12日（金）

	時間	調査内容	会場
①	11:00～12:30	評価団 事前打合せ	第2教室
②	12:30～13:30	評価団 昼食	第2教室
③	13:30～15:00	プログラム実施機関関係者（責任者）との質疑（面談）	第2教室
④	15:00～16:20	施設見学・授業参観	第1教室ほか
⑤	16:20～17:20	学習者とのインタビュー	第2教室
⑥	17:20～18:20	評価団 事後打合せ	第2教室